

玉の清流

発行者 等々力地区身近なまちづくり推進協議会 広報部会
事務局 等々力まちづくりセンター
TEL. 03-3702-2143
FAX. 03-3702-1165

「等々力の歴史を語り継ぐ会」の歩み

会長 大平 鉦介



私たちの住んでいる等々力は、古き良き歴史と伝統行事、そして自然が息づいているまちです。

私たち「等々力の歴史を語り継ぐ会」は、等々力地区にお住いの方々に、古き良き歴史や伝統行事、自然を後世に残していくため、そして何よりこれまで以上に愛着を持って住み続けていただき、地域の絆を強めることを目的として、平成22年6月に設立しました。

地元町会(協和会、等々力和敬会、等々力三和会)から協力を得て、各町会から推薦された、当時40代から60代の有志12名で発足し、現在も同じメンバーで活動を続けています。

当初の主な活動としては、古くから住んでいる方々から、主に昭和の始めから30年代にかけての生活風景、行事などの写真や資料等を提供していただき、さらに、当時の様子を直接お聴きするために、座談会や個別のインタビューを行うことにより、記



録に残すことでした。

そのような活動を基に、最初に作成したものが、「わたしたちの故郷とどろき」という小冊子です。

主に、地域の小学生を対象として、作成したものです。写真をなるべく多く掲載し、内容的にも小学生ふたりが、近所に住むお年寄りの夫婦に尋ねる形式で、戦後の小学生の遊びやまの移り変わり、地元の伝統行事を話し言葉で紹介しています。試行錯誤の末の初めての小冊子の完成ということ、私たちにとっては、今でも感慨深いものとなっています。

その後、平成25年3月には、等々力の史跡や昔の生活、文化の名残を紹介し、主に散策に利用していただけるよう「温故知新 歩いてみよう とどろきお散歩まっぴゅ」を作成しました。以前作成した小冊子と同じく地域の小学校を始め、各町会や商店街、地元各金融機関等にも置いていただき、地



感じなのか興味があつて乗ってみた。

2022年3月26日、あいにくの雨が降る天気の中、中町五丁目バスを待つっていると、駒沢方面から中町五丁目の交差点を左折して、行き先表示が回送から田園調布駅に変わった。バスは、自由が丘から出ている赤いシャれたバスで、ちょっと意外な感じがした。予想では、瀬田の営業所から回送されてくる通常の東急のバスがくるものだと思っていたからである。220円を払い、座席に座るとすぐに発車。田園調布までのバス停は12箇所あるが、大概のバス停は通過だから、私以外の乗客は誰もいない。バス停を通過して、次のバス停のアナウンスが車内に虚しく響く。誰か乗ってこないかなと何やら不安感が増してくる。『等々力七丁目』を通過して、『八幡中学校』に停まって、バスの乗車口が開いた。ここは自由が丘方面のバスを利用する人の多いところだ。雨のなか、人が並んでいたから、誰か田園調布方面に乗る人がいるのではと期待が膨らんだが、

域住民だけでなく、等々力を訪れた般の方々にも配布することができました。なお秋には、関係団体の協賛により、当該マップを利用した歩こう会も実施され、各散策ポイントにおいて、メンバーによる解説を行いました。

その後、平成28年3月には、これまでに収集した写真や資料を使い、初めての展示会「等々力の今昔」を2日間にわたり開催しました。

続いて4月には、三つ目の冊子となる「とどろきの歳時記」を作成しました。これは、等々力の伝統行事や風習などを季節ごとにまとめ、写真とともに、解説を加えたもので、折り畳めて持ち歩きにも便利ないようにしました。前に作成したお散歩マップと同様、関係各所に配布し、現在も各面で活用していただいています。

その後の活動としては、引き続き写真や資料等の収集、個別のインタビュー、ミニ座談会などを行いました。展示会につきましても、毎年3月に、テーマを決めて平成31年まで開催してきました。毎回、ご好評をいただき、例年百数十名の方々が来場されました。残念ながらコロナ禍により、この二年ほどは、開催が中止となってしまいましたが、コロナが落ち着きましたら、再開する予定で準備は進めておりますので、楽しみにしていただきたいと思ひます。

今後の課題としては、貴重な資料となる写真の収集が、ますます困難になっていること、また、いわゆるまの長老が、年々減りつつある現実をどのように受け止めていくか、さらにはメンバーの高齢化、固定化に伴う組織の硬直化などが挙げられます。次代を担う若い世代を、これくらいに取り込み、引き継いでいくことができるかも検討していく必要

誰も乗り込んでこない。乗車口が開まり、発車。『奥沢七丁目』を過ぎて、次の『九品仏駅前』のバス停が近づくのと、ひよつとして誰か乗る人かと思つたが、虚しく通過。このバス路線の中で、唯一、電車の最寄りのバス停で期待感があつたのだ。『奥沢六丁目』『玉川田園調布』と通過していき、環八を越えて『田園調布駅』に着いたのは18時18分。そこで待っているお客さんは誰もおらず、私自身がそのバスに再び乗り込み、『八幡中学校』で降りた。時刻は18時25分で、いつの間にか雨が上がっていた。

改めて、乗ってみた感想は、このバスを利用する人はどういう人だろう



があると思つています。

このような状況ではありませんが、これからも等々力まちづくりセンターとより密接に連携し、地元町会を始め、各関係団体とも協力を図り、更なる情報提供やご意見をいただくことで、活動の場を拡げていきたいと考えています。皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

なお、紹介した小冊子は等々力まちづくりセンターでお配りしておりますので、ぜひご覧ください。

★次号より、等々力の歴史を語り継ぐ会提供の写真による「等々力の今昔」を不定期に掲載していきます。お楽しみに！

ご入学 おめでとうございます。

玉川小学校	124名
尾山台小学校	81名
九品仏小学校	52名
等々力小学校	113名
玉堤小学校	95名
八幡中学校	57名
尾山台中学校	99名
東深沢中学校	144名

—これからの行事—

- ◆等々力三和会親子防災大会 7月17日(日) 等々力8丁目公園
- ◆さぎ草展 7月23日(土) 玉川総合支所コミュニティ広場
- ◆尾山台商栄会盆踊り大会 7月30日(土)、31日(日) 芝信用金庫尾山台支店前広場
- ◆ふるさと区民まつり 8月6日(土)、7日(日) 若林公園 松陰神社
- ◆等々力六丁目町会盆踊り大会 8月23日(水) 八幡中学校
- ◆尾山台振興会サマーナイトフェスティバル 8月28日(日) 尾山台駅前
- ◆アドベンチャーin多摩川 8月28日(日) 多摩川
- ◆玉川神社例大祭 9月17日(土)、18日(日) 玉川神社

かと。通勤や通学、レジャーに利用するには、無理がある。唯一可能性があるのは、『玉川電話局』のすぐ近くにある、たとえばうなぎ屋さんを利用する場合である。土曜日、18時30分あたりの時間を予約しておけば、役立つのかもしれない。

週に1便しかない路線を、免許維持路線と言うのだそう。完全に路線を廃止してしまうと、路線免許の申請が大変だからというこららしい。地域の再開発などで沿線のバスへのニーズが高まれば、いつでも増便できる可能性が残されているからだろう。

週に1便しかないバスは、世田谷区の中でもう1箇所あることがわかった。岡本一丁目あたりを走るバスで、用賀と成城学園を結ぶ路線で、ここでは土曜日の14時頃を走っている。ここは2021年4月に路線が縮小されたところだが、同じように免許維持路線となっている。世田谷区の中でも、利用頻度の少ない路線は、今後も免許維持路線という形で残っていくのだろうか。